

教育データ利活用に向けた実効的な方策について

①教育データの利活用に係る論点整理（中間まとめ）の進捗状況

- 「教育データの利活用に係る論点整理（中間まとめ）（令和3年3月）」において、教育データ利活用の意義等について整理いただいたことを受け、様々な取組を進めてきた。

教育データの利活用に係る論点整理（中間まとめ）概要

令和3（2021）年3月
教育データの利活用に関する有識者会議

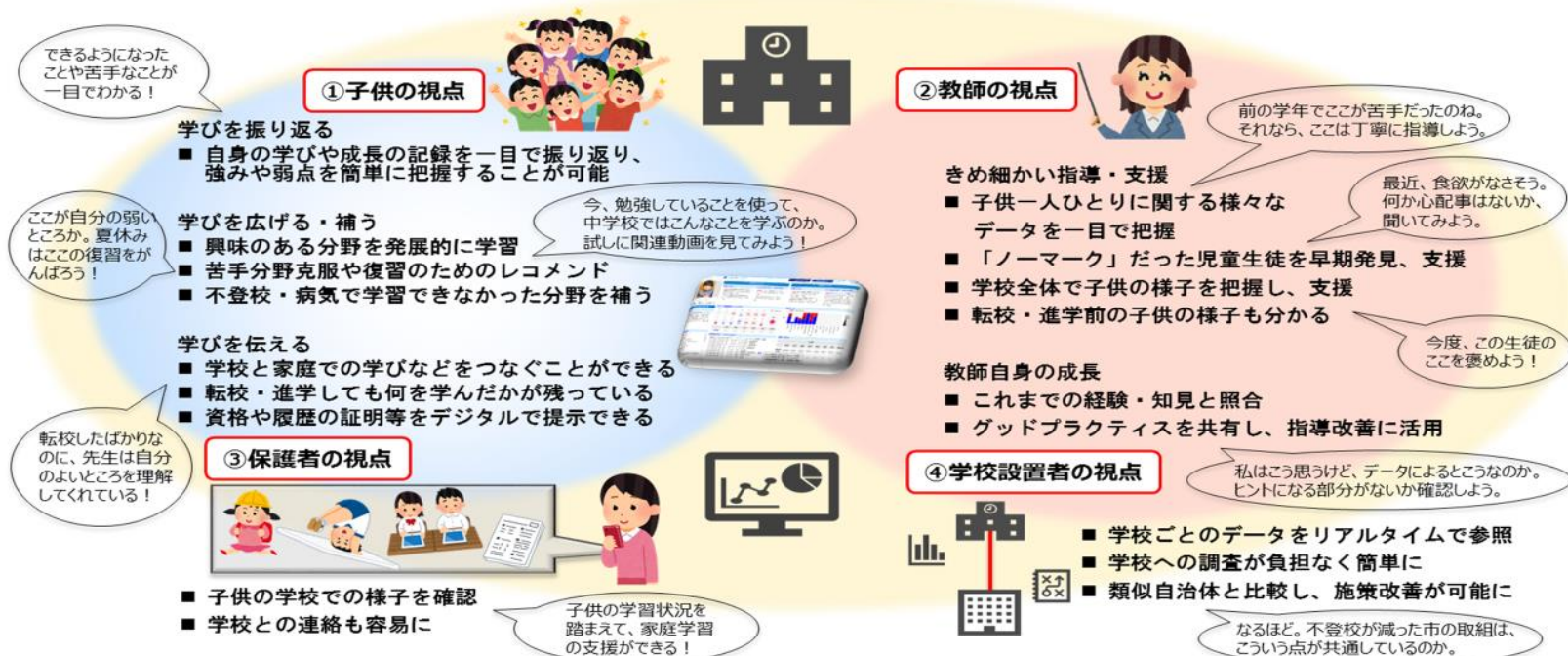
1. 教育データの定義

- ✓ 初等中等教育段階の学校教育における児童生徒（学習者）のデータが基本。
- ✓ ①児童生徒（学習面：スタディ・ログ、生活・健康面：ライフ・ログ）、②教師の指導・支援等（アシスト・ログ）③学校・学校設置者（運営・行政データ）。
- ✓ 定量的データ（テストの点数等）だけでなく、定性的データ（成果物、主体的に学習に取り組む態度、教師の見取り等）も対象。

2. 教育データの利活用の原則

- (1) 教育・学習は、技術に優先すること
- (2) 最新・汎用的な技術を活用すること
- (3) 簡便かつ効果的な仕組みを目指すこと
- (4) 安全・安心を確保すること
- (5) スモールスタート・逐次改善していくこと

3. 教育データの利活用の目的（将来像の具体的イメージ）



教育データ利活用に向けた実効的な方策について

①教育データの利活用に係る論点整理（中間まとめ）の進捗状況

「中間まとめ」の抜粋

7.（4）学校現場におけるデータ利活用の仕組み

- 学校における学習の記録を継続的に蓄積していく仕組みは、今後、実態や技術の進展を踏まえて、全国的に共通化する部分があれば汎用的に行えるように支援を行うなどの検討を行う必要がある。
- データ内容の意味を共通化できるものについては、データの相互運用性の観点から、データの標準化をさらに進める必要がある。
- 学習者が複数のコンテンツやシステムを円滑に使用できるようにし、学びを充実させる観点から、学校現場において利用が想定しやすいデジタル教科書とデジタル教材の連携が求められる。また、今後、これらの活用記録を蓄積し、他のデータと併せて活用できるようにするべきである。
- シングルサインオンを含め、様々なシステムやソフトウェアを簡便に活用することができるよう、ユースケースを踏まえつつ、児童生徒ごとにデジタル教科書や文部科学省が開発・運営するCBT（Computer Based Testing）システム（MEXCBT）をはじめとした様々な学習ツールの窓口となる機能（初等中等教育学習マネジメントシステム「学習eポータル」）や、学校や自治体ごとのデータ蓄積の標準モデルを構築することが必要である。
- 「学習eポータル」は、教育データの利活用を行う上で標準的に必要となるシステムであり、普及促進を図る必要がある。その際、現在、学校現場で活用しているシステム等をいかせるよう、配慮するべきである。
- 学校においては教職員がそれぞれデータを作成・記録してデータが散在しがちであることから、有効に利活用するためにはまず学校や自治体ごとにデータを集約して記録することが必要となる。その際、政府のガバメントクラウド（Gov-Cloud）構想等もあり、今後、他の分野の活用例も踏まえ、全国の学校や自治体が標準的に備えるべき仕組み等について検討を深めていくべきである。
- 国として、標準化された定量的データを収集・蓄積できる基幹となるような調査の在り方等について、検討が必要である。

これまでの進捗

- ① 教育データ標準の改訂により、データ標準化は進みつつある。
- ② 文部科学省CBTシステム「MEXCBT」は全国ほぼ全ての自治体で活用が開始。
- ③ 各システム間の連携や活用記録の蓄積、データ集約のための規格は「学習eポータル標準モデル」で整備。
- ④ 「全国の学校や自治体が標準的に備えるべき仕組み等」について検討。（次ページ以降に整理）
- ⑤ 文部科学省Web調査システム「EduSurvey」により統一規格でのデータ収集が実現。

今後に向けた課題

- ① 「全国の学校や自治体が標準的に備えるべき仕組み等」（以下、「標準的な仕組み」という。）について、自治体に示すとともに、自治体の実装させていくこと。
- ② 教育データの利活用の効果的な在り方と成果を具体化するための取組は継続すること。

教育データ利活用に向けた実効的な方策について

② 標準的な仕組み

- **教育データ利活用の意義等の実現のための標準的な仕組み**について、機能の観点から以下の通り整理を行った。

標準的な仕組み（機能）

○主体ごとに必要な機能とその効果

●児童生徒（保護者）

- ・ 児童生徒が負担なく便利にツールを利用できるようにするため、様々なツール（デジタル教材や協働学習ツール等）がわかりやすく一覧で表示されるとともにシングルサインオンでアクセスできる
- ・ 学びを振り返るとともに、次の学びにつなげることができるようにするため、学んだ内容や学習の進捗状況が一覧で表示されるなど、学びに役立つ情報をわかりやすく簡便に把握・管理できる

●教師、学校

- ・ 児童生徒のきめ細かい指導・支援につなげるため、個々の児童生徒や、学年クラス毎の学びや生活に関する状況をわかりやすく簡便に把握できる

●教育委員会

- ・ 具体的な施策や学校への支援等につなげるため、各学校や自治体全体の状況をわかりやすく簡便に把握できる

○上記の機能のために必要なシステム

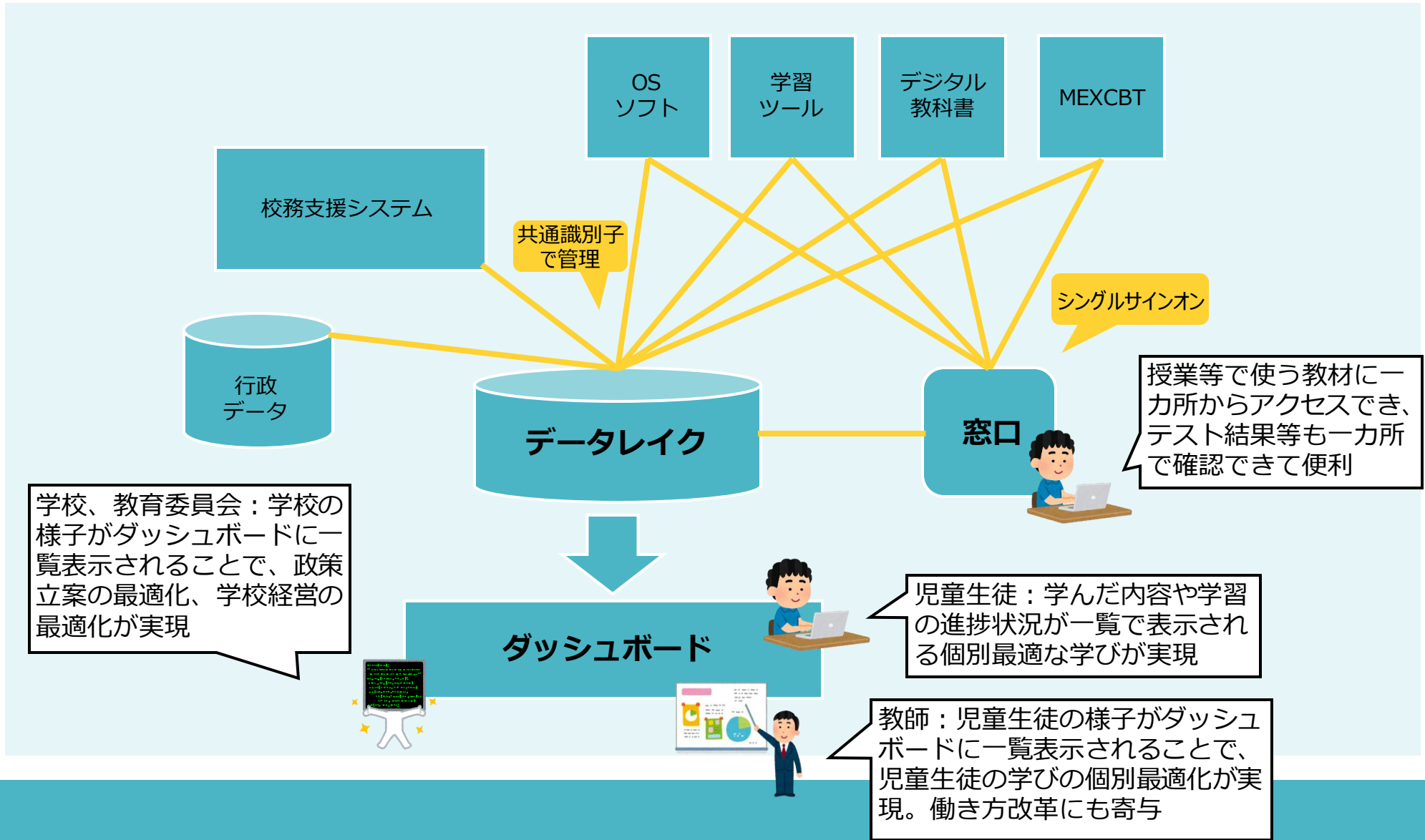
- ・ 様々なツールに一カ所からのログインとシングルサインオンが可能になる仕組み
- ・ 児童生徒の様々なデータを共通の識別子で管理する仕組み
- ・ 学習ツールで学んだ内容を集約し、結果を本人や保護者に提供する仕組み
- ・ 校務系データや学習系データ、行政系データなど、データ利活用に必要な様々なデータを連携し、包括的に保管・管理する仕組み
- ・ わかりやすく簡便にデータを把握できるよう、データを分析・可視化できる仕組み（例：ダッシュボード）

教育データ活用に向けた実効的な方策について

② 標準的な仕組み

- 標準的な仕組み（機能）を満たしたシステム構成イメージは、以下のとおりである。

標準的な仕組み（機能）を満たしたシステム構成イメージ



教育データ利活用に向けた実効的な方策について

③本日ご意見いただきたい点

今後に向けた課題

- ① 「全国の学校や自治体が標準的に備えるべき仕組み等」について、自治体に示すとともに、自治体の実装させていくこと。[再掲]
 - ➡取組の進度に自治体間格差があるため、取組が進んでいない自治体を後押しし、全国に広げていく必要。
 - 「標準的な仕組み」の必要性を理解し、実装に向けた計画を立てられるようにする
→データ利活用に意義を感じて、計画につなげていくための方策が必要。
 - 「標準的な仕組み」の実装のため、必要な予算を確保し事業化できるようにする
→技術的、専門的な知見が十分でない場合の支援等の方策が必要。必要な予算が確保できるようにするための方策が必要。
- ② 教育データの利活用の効果的な在り方と成果を具体化するための取組は継続すること。[再掲]
 - 効果的なデータ利活用の事例が少ない ➡好事例を増やし、見える化する必要。

自治体において、「標準的な仕組み」を実装し、教育データ利活用を推進していくために、今後1～2年でどのような「実効的な方策」が必要か。